

9月24日 「リラックスしに來い」 by プンさん

今日はコミュニティセンター内での村民のくつろぎ方や過ごし方に焦点を当てて観察してみた。バンジャムルンのいいところとして、村民がコミュニティセンターでくつろいでいることが挙げられると思う。仕事中でも暇なときは店の裏側でおばあちゃんが横になって寝ていたり、チャー（コンデンスミルク、砂糖たっぷりの激甘の紅茶・・・もはやもとの紅茶の味などわからない）やカフェー（コンデンスミルク、砂糖がチャーよりは控えられたコーヒー）を片手におしゃべりしてゆるゆると過ごしていたり、とてもリラックスしている。そんなところを数枚の写真に収めた。

午前中から R-TEC という専門学校の学生がコミュニティセンターに研修に来ていた。ローン・チャイが「彼らと一緒にレクチャーを聞いたらどうだ？」みたいなことをジェスチャーを交えながら言い、中にいる専門学校の先生らしき人も OK サインを出していたので、生徒にまじってチャチャイさんのレクチャーを聞いた。遅れて入ったにもかかわらず一番前に座らされる。タイでも一番前の席は敬遠されるのだろうか。レクチャーを聞いていると「イーブン」（＝「日本」「日本人」）のワードが連発したので予感した。そろそろ自己紹介が振られる、と。その通りであった。チャチャイさんが「イーブン」なんたらかんたらと言いながらマイクを渡してきた。覚束ないタイ語で自己紹介をすると、生徒はみな笑いながら拍手してくれた。明るっていいね！タイの生徒はタマサート学生もそうだが、公共の場で話す人に優しい。日本で暮らしてきた中ではあまりそんな雰囲気ではなかったと記憶している。たぶん、なぜ拍手するのかを先生や大人が論理立てて教えてくれないからだろうか？それとも尋ねなかった僕・生徒がいけなかったのだろうか？・・・。

チャチャイさんのレクチャーの中で、バンジャムルンの紹介 VTR が流されていた。いいショットばかりで脱帽だった。撮っている人はプロなのか、バンジャムルンの住民なのか、どっちだろうか？どちらでも有り得るかなあ。自分たちがバンジャムルンの紹介 VTR を目指すプロセスにおいて、この VTR の中に有るものを無いものをチェックする必要があると思ひ、いくつかメモを取った。自分たちが取れる画には限りがある。でも、バンジャムルンの人が良いと感じるものと僕・僕らを感じるものは、共通項もあるだろうが違う部分もあるだろう。その違う部分を探すためには、バンジャムルンの人々が良いと思っているもの（それは僕も良いと思えるものが大半なのだが）を特定する必要があると思ったからだ。VTR に有るバンジャムルンの人が良いと思う部分は、やはり生活を知り尽くしているので、ぼくも良いと感じるものがほとんどだった。だが、ぼくが「ここもいいよなあ」と思う部分はこの VTR にはなかったのだから、それをバンジャムルンの紹介 VTR に載せられたらいいと思う。が、10種類ほどあるバンジャムルンの VTR にそれが有るかないかは定かではないので、早めにチェックしたい。

午後は R-TEC の学生について行ってバンジャムルン観光に出かけた。彼らの数名に日本食について聞いた。寿司、うどん、ラーメン、しゃぶしゃぶ、すきやき、などが好きだと

言っていた。僕が「でも辛い味の日本食が好きなんでしょ？」と聞くと、「そんなことはない（笑）辛いやつを食べるよ（笑）」と答えてくれた。タイの人は辛いものばかり食べるので、味覚が麻痺しているのじゃないかとすこし疑っていたが、その疑いは晴れた。たしかにバンジャムルンでも辛い料理が食べられていることを考えれば、辛い料理に慣れた人でも味覚がちゃんと働いていることはわかる。だが、「イーブン」用に作っている可能性も拭えないので、すこし疑っていたのだ。なるほど。よく考えれば辛味は痛覚だ。味覚とは別なので、辛いもの好きでも味覚は大丈夫なのかもしれない。

その後帰ってからは夕飯とカラオケ大会だった。カラオケではイーブン三人でドラえもんを歌わされる羽目になり、2番までをなんとか歌った。途中で切り上げたのだが、学生のみんなもドラえもんの唄を最後まで知らないのでは違和感は無いらしい。日本のアニメの影響力はすごいなあとしみじみ思った。インドネシアの留学生もドラえもんや他のアニメを知っていたし、40才ごろと思われるトゥッケーさんも「一休さん」を知っていた。テレビ・アニメの力って良くも悪くもすごいんだなあ。